

本郷新記念 札幌彫刻美術館 40年のあゆみ展

本郷新記念札幌彫刻美術館は、1981年6月29日に開館して、今年で40年を迎えました。

これまで、本郷新を顕彰するとともに、彫刻をより多くの人に親しんでもらうためのさまざまな活動を行ってきました。それは、各種展覧会や本郷新賞の贈呈、講演会やコンサート、造形教室、各地の彫刻をめぐりツアーなど多岐にわたります。また、次代を担う子どもたちのための活動にも力を入れてきました。

本展では、開館以来40年間にわたり展開してきた、それら数多くの事業を目的別に分類して紹介するとともに、展覧会のチラシや館報、関連資料等を展示し振り返ります。当館の足跡とその果たしてきた役割を知っていただけたら幸いです。

1979年 (昭和54)	10月 彫刻を中心とした美術文化に貢献するため、宮の森にあるアトリエとギャラリーの機能を備えた邸宅と土地、及び全作品の提供を本郷新が北海道知事や札幌市長などに申し出る
1980年 (昭和55)	2月13日 本郷新逝去 故人の遺志である財団設立に向けて遺族、関係者などで協議を進め、札幌市より美術館建設費と管理費あわせて1億円、基金として1千万円、北海道より本館建設用地取得費と記念館営繕費あわせて7千万円の補助金が決定 6月16日 財団法人札幌彫刻美術館設立総会を札幌全日空ホテルで開催 7月31日 財団法人札幌彫刻美術館設立。寄贈されたアトリエ・ギャラリーを本郷新記念館として維持管理を開始 9月30日 記念館の隣接地を購入し、本館建設に着手（設計：田上義也） 11月 記念館営繕工事完了
1981年度 (昭和56)	6月29日 札幌彫刻美術館開館 9月24日 札幌彫刻美術館友の会発足 札幌市内や北海道内外の彫刻を鑑賞する「彫刻めぐり」開始 2月 本郷新の命日（2月13日）に石狩浜の《石狩》の像を訪ねて献花する会を開始（1999年度から6月に移行し、2014年度まで継続） 3月20日 館報「もにゅまん」発行（以後、2006年度のNo.27まで毎年発行、2009年5月にNo.28を発行後休刊）
1982年度 (昭和57)	6月23日 記念館1階ロビーに喫茶コーナー「原始林」オープン（1983年11月まで） 北海道の彫刻家を紹介する「北の彫刻展」を開始（隔年で2010年度まで15回開催）
1983年度 (昭和58)	「本郷新賞」を創設。以後、隔年で賞を贈呈（2011年度まで15回実施）
1984年度 (昭和59)	「本郷新彫刻展」を、札幌市民ギャラリー、神奈川県立近代美術館、浜松市美術館で開催
1988年度 (昭和63)	周辺の環境整備として、「宮の森モール・彫刻の道」を整備し、《奏でる乙女》を設置。1989年から1990年にかけてに「宮の森緑地」に《鳥を抱く女》と《太陽の母子》を設置
1991年度 (平成3)	開館十周年記念誌発行
1996年度 (平成8)	「北海道野外彫刻マップ」発行
1999年度 (平成11)	「宮の森散策と美術館鑑賞の会」開始（2008年度まで毎年実施） 美術館を無料開放する「サンクスデー」を開始
2001年度 (平成13)	「開館20周年記念 本郷新とゆかりの作家展」開催 開館20周年記念誌発行
2002年度 (平成14)	「北の彫刻展」刷新 札幌彫刻美術館友の会会報「いずみ」創刊（以後、年4回発行）
2005年度 (平成17)	「生誕100年 本郷新展」を札幌芸術の森美術館と同時開催 NHK「新日曜美術館」で本郷新の特集を放映
2007年度 (平成19)	財団法人札幌彫刻美術館を解散し、財団法人札幌市芸術文化財団に統合 名称を「本郷新記念札幌彫刻美術館」に改称 「移動展示・出前事業」開始（2011年度まで毎年実施）
2009年度 (平成21)	「さっぽろ雪像彫刻展」開始
2011年度 (平成23)	開館30周年を記念し、北海道内の具象と抽象の彫刻家各30人による展覧会を開催 開館30周年記念コンサート「白樺の詩」を札幌市教育文化会館で開催 子どもの美術体験事業「ハロー！ミュージアム」開始 「北の彫刻展」を発展的に継承し、「New Eyes」を隔年で開始 若い彫刻家を紹介する「In My Room」を開始
2013年度 (平成25)	「本郷新賞」の選考方法を変更し、「本郷新記念札幌彫刻賞」を開始。3年毎に募集、選考、作品設置、受賞作家展を実施 「円山・宮の森散策マップ」発行（宮の森美術館と連携）
2016年度 (平成28)	「開館35周年記念 ロダン展」開催 「彫美連続講座」開始
2017年度 (平成29)	「わくわく★アートスクール」開始 記念館2階に図書・情報コーナーを新設
2019年度 (平成31/令和元)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館（2/29～3/31）
2020年度 (令和2)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館（4/14～5/24） 8月の1ヶ月間、記念館を無料化 「開館40周年記念 本郷新・全部展」を翌年度にかけて5回開催
2021年度 (令和3)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館（5/4～7/12） 「開館40周年記念 宮の森 この地で生まれた美術」開催

財団法人札幌彫刻美術館 理事長

田上古也（1980年7月31日～1991年8月17日）
国松 登（1991年8月30日～1994年4月18日）
河邨文一郎（1994年4月～2002年3月）
藤島 積（2002年4月～2007年3月31日）
※2007年度に財団法人札幌市芸術文化財団に統合

館長

原子 修（1980年7月31日～1987年5月29日）
児玉映一（1987年5月30日～1989年6月30日）
米谷哲夫（1989年7月1日～1992年度）
安味貞治（1993～1997年度）
廣井 弘（1998～2001年度）
三輪 望（2002～2005年度）
川合悌一（2006～2008年度）
佐藤 信（2009～2012年度）
池田悦子（2013～2015年度）
寺嶋弘道（2016～2020年度）
吉崎元章（2021年度～）

学芸員

岡田知子（1980年12月～1982年度）
井上みどり（1983～2010年度）
樋泉綾子（2011～2016年度）
田中千秋（2012～2013年度）
山田のぞみ（2017～2020年度）
岩崎直人（2019年度～）
平井菊花（2021年度～）

事務職員

山田裕子（1980年7月31日～1989年12月）
及川 敏（1980年9月1日～1997年度）
大場裕子（1981年3月25日～2009年度、2011年度～）
森川秀美（1998～2007年度）
柳原 潤（2008～2009年度）
齋藤隆志（2008年度）
大村恵一郎（2009年度）
梅内親治（2010～2014年度）
木谷亮嗣（2010年度）
松島幸和（2010年度～2014年12月）
大友理恵（2015年1～3月）
加藤正浩（2015～2016年度）
菊地紫乃（2015～2020年度）
鈴鹿基子（2015～2020年6月）
萩原久里子（2015年度～2017年6月）
後本朋枝（2015年8月～2017年度）
笹森衣里（2016年度～2020年12月）
垣内陽子（2017～2018年度）
山下秀幸（2017年度～）
田中慶子（2017年7月～）
河崎ゆかり（2020年度～）
河端昌子（2020年度～2021年4月）
佐藤良子（2021年2月～）
清水むつみ（2021年7月～）



宮の森のアトリエの庭でくつろぐ本郷新（1978年）
手前は、本郷新の彫刻の石膏取りを行っていた松平実



駐車場の整備工事（1981年5月）
本郷新記念館の庭の一部を整備し、10台分の駐車スペースを確保



開館記念式典でのテープカット（1981年6月29日）
左から2番目より：堂垣内尚弘（北海道知事）、本郷重子（本郷新夫人）、田上古也（財団理事長）、板垣武四（札幌市長）



入館者1万人セレモニー（1981年10月2日、本館ロビー）
開館から2ヶ月半の9月15日に入館者が1万人となり、後日、田上古也理事長から賞状と本郷新作品集を贈呈



記念館1階ロビーに一時期あった喫茶コーナー「原始林」（1982～83年）



第7回本郷新賞選考会（1995年5月31日）
世田谷にあった本郷新のアトリエを会場にほぼ毎回、選考会が行われていた



周辺整備の一環として「宮の森緑地」に設置された《鳥を抱く女》除幕式（1989年8月29日）



第1回本郷新賞記念札幌彫刻賞授賞式（2014年7月11日）
本館研修室にて、上田文雄札幌市長より、受賞者谷口顕一郎に賞状と副賞を授与



記念館前に設置していたコンクリート彫刻《鳥の碑》の転倒事故（2018年11月28日）
長年の屋外設置による鉄製心棒の腐蝕により、開館前の安全点検作業中に作品が倒れ、職員が負傷。彫刻の保全に対する意識を高めると契機となり、札幌市所管の野外彫刻の設置状況確認調査につながった。《鳥の碑》は、2020年にブロンズに鋳造し、再設置

本郷新芸術の紹介

収蔵品展

当館のコレクションは、本郷家からご寄贈いただいた358点の作品からスタートしました。現在は、本郷新作品1,771点、それ以外の作品114点を収蔵しています。美術館の核となるこれらの作品は、本館と記念館における、さまざまなテーマをもとにした所蔵品展により、本郷新の芸術を多角的に紹介しています。

1981～1986年度 常設展

1987～1990年度 前期常設展／後期常設展

1991年度 前期常設展「開館10周年記念 彫刻家本郷新による未公開デッサン展Ⅰ」／後期常設展「彫刻家本郷新による未公開デッサン展Ⅱ」

1992年度 前期常設展「本郷新展」／後期「本郷新展」

1993年度 前期収蔵品展「本郷新展」／後期収蔵品展「土と火の祭りーテラコッタ作品を中心にー」

1994年度 前期収蔵品展「太陽の賛歌ー野外に輝いた彫刻たちー」／後期収蔵品展「手の持つ表情と魅力ー手の語るものは…ー」

1995年度 前期収蔵品展「動と静ー彫刻家本郷新が追求した馬の造形ー」／後期収蔵品展「フォルムとその表情」

1996年度 前期収蔵品展「彫刻にみる母と子のふれあい」／後期収蔵品展「空間に描かれた美「彫刻」ー素材と造形」

1997年度 前期収蔵品展「馬の造形」／後期収蔵品展「本郷新と周辺の人々ー家族・仲間ー」

1998年度 前期収蔵品展「本郷新が愛した石狩浜ー小樽・春香山のアトリエにおける制作活動ー」／後期収蔵品展「'70年代に見る本郷新の作品／コレクション展」

1999年度 前期収蔵品展「彫刻家本郷新の原点ー'28年から'60年の軌跡ー展」「釣り人拔海ー本郷新のもうひとつの顔ー展」／後期収蔵品展「野外彫刻と本郷新ー'60年～'70年ー展」「海外旅行の思い出ー'52年～'53年ー」

2000年度 前期収蔵品展「鳥を抱く女シリーズ」「海外旅行の思い出(2)ー1956年ー」／後期収蔵品展「裸婦の表現」「コレクション展Ⅰ」「コレクション展Ⅱ」

2001年度 前期収蔵品展「本郷新の母子像」「本郷新のキリスト像」／後期収蔵品展「土と火の祭りーテラコッタ作品を中心にー展」「春香山の思い出」

2002年度 前期収蔵品展「裸婦の美」「馬の造形」「家族の肖像」／後期収蔵品展「素材と表現展」「素描展」

2003年度 前期収蔵品展「本郷新と野外彫刻ー1950年代から'60年代ー」「レリーフ展 【特別展示】妻、重子への贈り物展」／後期収蔵品展「悲しみと苦悶の人々ー無辜の民シリーズー」「素描展パート2」

2004年度 前期収蔵品展「野外彫刻の魅力ー1965年から1980年までー」「テラコッタ展」／後期収蔵品展「ひと かたちー躍動する人体の魅力ー」「素描展パート3」

2005年度 前期収蔵品展「躍動する裸婦の魅力」「本郷新が愛した石狩浜と白樺」「馬と少年シリーズ」「海外旅行の思い出」「本郷新の野外彫刻」／後期収蔵品展「鳥を抱く女シリーズ」「素描展パート4」「本郷新の版画」

2006年度 前期収蔵品展「平和への祈り」「賞牌とメダル」「本郷新の装丁本」／後期収蔵品展「新制作展と本郷新」「素描展パート5」「本郷新の油彩画」

2007年度 前期収蔵品展「素材の多様性」「花の彩り」／「野外彫刻展」／後期収蔵品展「本郷新と野外彫刻」「釣り人・拔海」

2008年度 前期収蔵品展「新たな表現への模索ー省略とデフォルメー」「遊びの中から生まれた造形ー本郷新を魅了したテラコッター」「本郷新の彫刻世界」／後期収蔵品展「やさしさに包まれてー本郷新の母子像ー」「あこがれたヨーロッパー120日間のヨーロッパ滞在スケッチー」

2009年度 「本郷新・平和への祈りー無辜の民ー」「本郷新の家族・周辺の人々」「本郷賞と本郷新の野外彫刻」「若き日の本郷新ー彫刻家の原点ー」

2010年度 前期収蔵品展「本郷新のコレクション展」／「本郷新展ー花展」「本郷新展ー版画展」「本郷新展ー記念碑となったレリーフ展」「本郷新展ー釣り人拔海展」／後期収蔵品展「裸婦像の魅力展」

2011年度 「コレクション展 とりうま・こどもー生きもの語りー」「本郷新展 土と火の祭りーテラコッター展」「本郷新展 本郷新賞受賞作家と本郷新展」「本郷新展 本郷新が最後に描いたキリスト像」「コレクション展 手が語るー彫刻における手の表情ー」

2012年度 「本郷新展 本郷新の愛したコレクション」「本郷新展 本郷新の部屋」「コレクション展 石と木のかたち」

2013年度 「コレクション展 『かお』を読むー顔をモチーフとした彫刻ー」「ミニコレクション展 本郷新の絵画」「ミニコレクション展 本郷新と春香山」「コレクション展 裸婦研究」

2014年度 「ミニ・コレクション展 本郷新と旅」「ミニ・コレクション展 本郷新のレリーフ」「コレクション展 彫刻のできるまでー本郷新の頭のなか」

2015年度 「彫刻の美ー本郷新に学ぶ彫刻鑑賞」「ミニ・コレクション展 本郷新の描いた山々」「ミニ・コレクション展 ちようこく動物園」「コレクション展 ふれる彫刻」

2016年度 「コレクション展 お母さん大好き!」「開館35周年記念 本郷新と札幌彫刻美術館」「コレクション展 あなたが選ぶ、本郷新のこの1点」

2017年度 「本郷新の人と芸術」「コレクション展 ふれる彫刻・手でみるアート」

2018年度 「本郷新、その生涯と作品」「コレクション展 彫刻家・本郷新が見た「異国」

2019年度 「本郷新の歩みと芸術」「コレクション展 本郷新と無辜の民」「所蔵品展」

2020年度 「東京2020公認プログラム 本郷新のレガシー【五輪大橋と花束】」「没後40年記念 本郷新・全部展①」「没後40年記念 本郷新・全部展②」

2021年度 「本郷新・全部展③ 彫刻の設計図」「本郷新・全部展④ 100の石膏像」「本郷新・全部展⑤ 本郷新の言説」



常設展（本館、1981年）



後期常設展（記念館、1990年）



ミニコレクション展 本郷新と春香山（記念館、2013年）



コレクション展 彫刻のできるまでー本郷新の頭のなか（本館、2014年）



本郷新・全部展④ 彫刻の設計図（本館、2021年）

ゆかりの作家展

本郷新と関わりのあった作家の作品を展示し、その交流や影響関係、時代性など、より幅広い視点から本郷芸術をとらえる企画展を開催しました。

本郷新の仲間達展（1984年）

芥川 永、菊池一雄、佐藤忠良、西 常雄、舟越保武、本田明二、柳原義達、山本常一、吉田芳夫、明田川孝、本郷新、山内壮夫

開館20周年記念 本郷新とゆかりの作家たち展（2001年）

本郷新、佐藤忠良、舟越保武、柳原義達、山内壮夫、本田明二

札幌第二中学の絆（2009年）

本郷新、山内壮夫、佐藤忠良、本田明二

独創性への道標（2009年）

オーギュスト・ロダン、エミール＝アントワヌ・ブールデル、シャルル・デスピオ、アリスティード・マイヨール、マリノ・マリニー高村光太郎、本郷新

北海中学の絆ーどんぐり会の仲間たち（2010年）

本郷新、梁川剛一、坂 坦道、枅内忠男、「どんぐり会」現役部員

4つの星ー札幌二中の彫刻家たち（2012年）

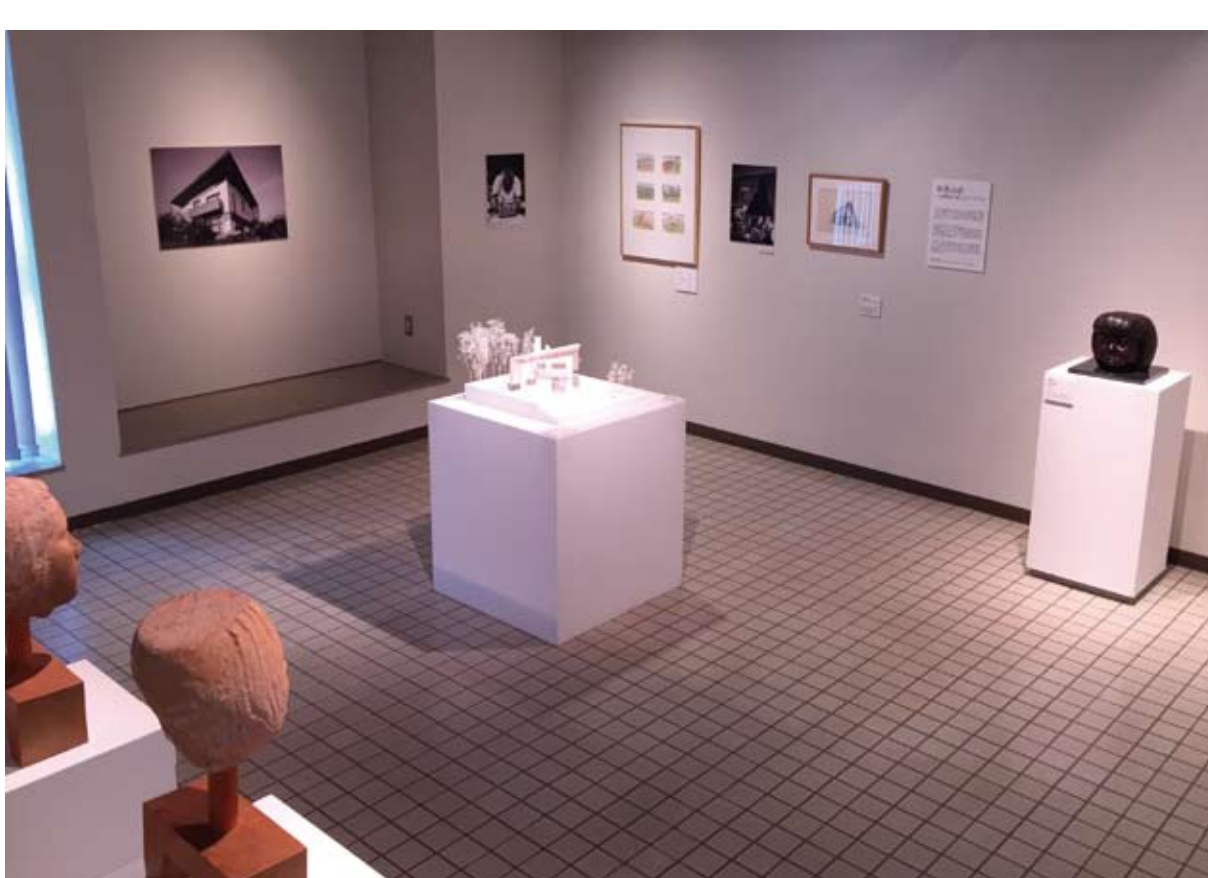
本郷新、山内壮夫、佐藤忠良、本田明二

田上義也と札幌彫刻美術館（2015年）

田上義也、本郷新



4つの星ー札幌二中の彫刻家たち（2012年）



田上義也と札幌彫刻美術館（2015年）

他館での本郷新展

本郷新の芸術を広く紹介するため、当館以外でも展覧会を開催しています。

本郷新彫刻展（1983年）

釧路市民文化会館展示ホールにて、彫刻43点、絵画16点、写真10点を展示

本郷新彫刻展（1984年）

札幌市民ギャラリー、神奈川県立近代美術館、浜松市美術館にて、彫刻99点、絵画70点、写真13点を展示

生誕100年 本郷新展（2005年）

生誕100年を記念し、札幌芸術の森美術館と当館との同時開催による大規模な回顧展を開催。それぞれ「「生きる」をつかんだ彫刻家」、「素顔の作家が遺したもの」というテーマのもと、彫刻、油彩、素描など計144点を展示

3日間だけのことに美術館 彫刻家・本郷新展（2017年）

札幌市西区民センターにて、彫刻13点、水彩・素描9点を展示

特別展示 本郷新「無辜の民」シリーズ（2018年）

共催事業として行った「結いー本郷新「無辜の民」と石狩浜の」の一環として、石狩市民図書館ロビーに「無辜の民」シリーズ全15点を展示

ちょっとお散歩ー本郷新展（2019年）

宮の森中学校文化祭「地域文化作品展」に本郷新の彫刻7点を展示



本郷新彫刻展（札幌市民ギャラリー、1984年）



生誕100年 本郷新展（札幌芸術の森美術館、2005年）

優れたパブリックアートの 顕彰と振興

本郷新賞

全国各地に数多くの彫刻を設置し、戦後日本のモニュメント彫刻を牽引した本郷新の半世紀にわたる業績を記念し、彫刻芸術の振興に寄与するために設けた賞。1983年から2011年まで隔年で15回続けました。

選考の前々年1月から前年12月までの2年間に、全国の広場、公園、街路、公共建築物等の常時鑑賞できる場所に設置された彫刻が対象であり、各地の推薦委員により推薦された作品のなかから、彫刻家や美術評論家5～9名による選考委員会が選考にあたりました。

受賞作の制作者に、賞状及び賞金100万円を贈呈するとともに、当館において、その作家を紹介する展覧会を開催し、合わせて講演会やシンポジウム等も行いました。

〈歴代の選考委員〉

菊池一雄、桑原住雄、佐藤忠良、匠 秀夫、舟越保武、堀内正和、本間正義、柳原義達、吉田芳夫、陰里鐵郎、向井良吉、酒井忠康、國松明日香、澄川喜一、山本正道、建畠朔弥

第1回（1983年） 《風の又三郎群像》

金子健二 安倍和子 寺田栄 栗原俊明
岩手県花巻市 ギンドロ公園

〔材 質〕黒御影石
〔寸 法〕h.300×500×250cm
〔制作年・設置年〕1981年
〔設置者〕花巻市



第2回（1985年） 《水の広場》

環境造形Q〈小林陸一郎・増田正和・山口牧生〉

愛知県名古屋市長 名城公園

〔材 質〕黒御影石〔アフリカ産・能勢産〕
〔寸 法〕h.120×φ120cm その他46基
〔制作年・設置年〕1984年
〔設置者〕名古屋市長



第3回（1987年） 《地上より》

塚脇 淳（協力者：サトル・タカダ）

兵庫県三田市 城山公園

〔材 質〕コルテン鋼
〔寸 法〕h.575×398×240cm
〔制作年・設置年〕1986年
〔設置者〕三田市（三田ロータリークラブ寄贈）



第4回（1989年） 《捷》

國松明日香

北海道札幌市 厚別公園

〔材 質〕コルテン鋼
〔寸 法〕h.1,635×800×1,087.5cm
〔制作年・設置年〕1988年
〔設置者〕第44回国民体育大会北海道実行委員会



第5回（1991年） 《Commencement and Peace》

簗田哲日児

東京都千代田区 紀尾井町ビル前庭

〔材 質〕黒御影石（シンパエ座）
〔寸 法〕h.630×130×130cm
〔制作年・設置年〕1989年
〔設置者〕株式会社大京



第6回（1993年） 《風待ち》

渡辺行夫

北海道虻田郡洞爺村（現・洞爺湖町）
浮見堂公園

〔材 質〕白御影石
〔寸 法〕h.350×580×120cm
〔制作年・設置年〕1992年
〔設置者〕北海道虻田郡洞爺村



第7回（1995年） 《連山夢想》

眞板雅文

岡山県倉敷市 JR児島駅前民話通り

〔材 質〕泥かぶり石（安山岩）・ステンレス
〔寸 法〕h.180×100×100cm
〔制作年・設置年〕1994年
〔設置者〕倉敷市



第8回（1997年） 《那の津往還》

豊福知徳

福岡県福岡市 博多港中央埠頭緑地モニュメント広場

〔材 質〕コルテン鋼（耐候性銅板）
〔寸 法〕h.1,500×700×1,700cm
〔制作年〕1995-96年 〔設置年〕1996年
〔設置者〕福岡市



本郷新記念札幌彫刻賞

「本郷新賞」が30年という節目を迎えたのを機に、「本郷新記念札幌彫刻賞」と名称を改め、若手作家の育成を願った本郷新の遺志を受け、50歳未満の若い彫刻家を対象とした賞にリニューアルしました。

この新たな賞は、札幌中心部に新設された「大通交流拠点地下広場」に約3年間設置する作品を全国公募するものであり、合わせて受賞作家による個展を当館で開催しています。一次選考では、設置作品のイメージ図や制作意図等を記した資料をもとに5～7点程度を選び、二次選考では、それらの約1/10サイズの模型作品を提出してもらい、受賞作を決めています。

受賞作家には、札幌市から賞金100万円（3年間の作品借用料を含む）と、当館から受賞記念展作品制作費50万円を贈呈しています。

〈選考委員〉 酒井忠康、建畠 哲、植松奎二、阿部典英、佐藤友哉、寺嶋弘道（第2・3回）

第1回（2014年） 《凹みスタディー 琴似川 北12条西20丁目ー》

谷口顕一郎

〔材 質〕アルミニウム板、ステンレス、鉄、H形鋼
〔寸 法〕h.290×310×140cm
〔制作年〕2015年
〔設置期間〕2015年2月～2018年1月



第2回（2017年） 《improvisation ～うけとめるかたち》

加藤宏子

〔材 質〕樟、鉄筋、石
〔寸 法〕h.260×410×128cm
〔制作年〕2018年
〔設置期間〕2018年2月～2021年1月



受賞者作品展

本郷新賞、及び本郷新記念札幌彫刻賞を受賞した作家の個展を当館で開催し、その作家の芸術性や作風を深く知ることができるとともに、多様な彫刻表現を札幌で紹介する機会となっています。



第3回本郷新賞受賞記念 塚脇淳彫刻展（1987年）



第8回本郷新賞受賞記念 豊福知徳彫刻展（1998年）



第2回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念 加藤宏子展（2018年）

撮影：小牧良彰

北海道の彫刻家たちの紹介

北の彫刻展

開館から長い間、本郷新賞受賞記念作品展とともに、当館の特別展の大きな柱となっていたのは、「北の彫刻展」です。北海道を拠点に活動する彫刻家に発表の機会を提供するとともに、北海道で生まれた彫刻作品を広く紹介するため、1981年の第1回展以来、隔年で15回続けてきました。

第10回展までは、出品作家を、特に際立った活動を続けている20人前後の彫刻家に、ある程度メンバーを固定して続けてきました。その間、本館や記念館、庭園に展示した数は、31作家のべ223点にのぼります。所属団体などの枠を越え、具象から抽象、素材も多様な表現が一堂に会し、北海道の彫刻の現状を展望できる機会であるとともに、世代を越えた彫刻家間の交流の場にもなっていました。

11回展以降は、出品作家を刷新して作家数を絞り、一作家あたりの展示スペースを広く取ることで、各作家の表現の世界をさらに深く紹介できるようにするとともに、12回展からをテーマを設けて、展覧会全体に統一性をもたせるなど、新たなスタイルによる北海道の彫刻の紹介を試みました。

第1回展～第10回展の出品作家

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回
	'82	'84	'86	'88	'90	'92	'94	'96	'98	'00
秋山沙走武	○	○	○	○	○	○	○	○		
阿部 典英		○		○	○	○	○	○	○	○
板津 邦夫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
伊藤 隆道				○	○	○	○	○	○	○
伊藤 寿朗	○	○			○	○	○		○	○
岩下 碩通			○	○	○	○	○	○		
岡沼 淳一			○	○	○	○	○	○	○	○
小野寺紀子			○	○	○	○	○	○	○	○
上遠野 敏							○	○	○	○
神田比呂子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
國松明日香	○	○		○	○	○	○	○	○	○
斉藤 一明	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
坂 坦道	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
佐藤 忠良	○									
砂澤 ビッキ		○	○	○	○					
高橋昭五郎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
田村 宏		○	○	○	○	○	○	○	○	
中江 紀洋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
永野 光一			○	○	○	○	○	○	○	○
二部 黎			○	○	○	○	○	○	○	○
本田 明二	○	○	○	○	○					
松隈 康夫			○	○	○	○	○	○	○	○
丸山 隆			○	○	○	○	○	○	○	○
安田 侃	○									
山下 嘉昭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山田 吉泰	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山本 一也	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
山谷 圭司					○	○	○	○	○	○
米坂ヒデノリ		○			○	○	○	○	○	○
渡辺 行夫							○	○	○	○
S.オストロンド	○									
計	16	17	21	23	26	24	26	25	24	21

北の彫刻展2002

伊藤隆弘、岡沼淳一、小川 誠、小野寺紀子、川上りえ、菅原尚俊、寺田 栄、藤井忠行

北の彫刻展2004 ―新しい具象―

伊藤三千代、岡部 亮、笠原昌子、川上加奈、椎名澄子、野又圭司、野村裕之、伴 翼

北の彫刻展2006 ―感性を刺激する素材の魅力―

小林重予、中江紀洋、檜原武正、艾沢詳子

北の彫刻展2008 ―心の中の自由な世界―

阿地信美智、柿崎 均、川上 勉、佐々木秀明、藤田真理、丸岡哲也

北の彫刻展2010 ―時代をになう女性たち―

伊藤三千代、桂 充子、川上加奈、佐々木雅子、佐藤志帆、椎名澄子、富原加奈子、渡邊 希

New Eyes

2012年度からは、「北の彫刻展」を発展的に継承し、北海道を拠点に活躍する立体作家を中心としながら、絵画、映像、インスタレーションなど多彩な表現を含め、現代的なテーマを探索するシリーズとして、新たにスタートしました。

New Eyes 2012 となりのひと

鴻上宏子、小林麻美、佐竹真紀、富田哲司、野又圭司、村山由布、本郷新

New Eyes 2014 Our Place～歩く・感じる・考える、私たちの生きる場所

上嶋秀俊、小助川裕泰、坂巻正美、進藤冬華、藤田真理、山本祐歳、本郷新

New Eyes 2017 家族の肖像

今村育子、唐牛幸史、佐竹真紀、鈴木涼子、深澤孝史、門馬よ宇子、本郷新

In My Room

コレクション展と同時開催で、本館展示室の一室を会場として、北海道を拠点に彫刻・立体表現を追求する若干彫刻家を個展形式で約1ヶ月ずつ紹介するシリーズを2012年度から始めました。

2012年度	vol.1 吉成翔子、vol.2 向川末桜、vol.3 引山絵里、vol.4 池田祐太、vol.5 板本伸雄
2013年度	vol.6 高橋知佳、vol.7 更科結希
2014年度	vol.8 町嶋真寿、vol.9 梶田みなみ、vol.10 佐々木仁美
2016年度	vol.11 宮下真理子、vol.12 菊池さくら

個展・グループ展

北海道において彫刻の枠を越える新たな表現に意欲的に取り組む中堅作家や、戦後の北海道の彫刻を代表する物故の彫刻家の個展を開催してきました。また、さまざまな切り口によって、北海道の彫刻家や立体表現を手がける作家を紹介するグループ展を開催しています。

ガラス工芸と彫刻の出会い展（1982年、本館庭園）

浅原千代治、谷和行、影山勝博、上浦斉、中川千明樹、佐川光信、水口議

グリーンサイド展（1984年、本館庭園、記念館前庭）

大滝憲二、佐々木方斎、佐渡英二夫、中山信一

開館30周年記念 **抽象彫刻 30人展―北の作家たち―**（2011年）

開館30周年記念 **具象彫刻 30人展―北の作家たち―**（2011年）

開館30周年記念 **具象・抽象彫刻 60人展―北の作家たち―**（2011年）

個展シリーズ **柿崎均展 ― 光のかたち ―**（2013年）

ハルカヤマサテライト（2013年）

セブン・ストーリーズ（2014年）

伊藤幸子、櫻見菜々子、経塚真代、椎名澄子、長谷川裕恭、坂東史樹

野又圭司展 脱出 ― 困難な未来を生きるために（2016年）

記憶素子 ― 丸山隆と教え子たち ―（2017年）

本田明二展 ひとノミ、ひとノミ、私は木を削る。（2018年）

砂澤ビッキ展 ― 樹 ―（2019年）

札幌ミュージアム・アート・フェア 2020-21（2020年）

宮の森 この地が生んだ美術（2021年）



第2回北の彫刻展（1986年）
【本館庭園】 砂澤ビッキ《樹の処女》と出品作家（前列：田村宏、中列左より：伊藤寿朗、本田明二、坂坦道、秋山沙走武、中江紀洋、後列左より：砂澤ビッキ、國松明日香、山本一也、山田吉泰、阿部典英）



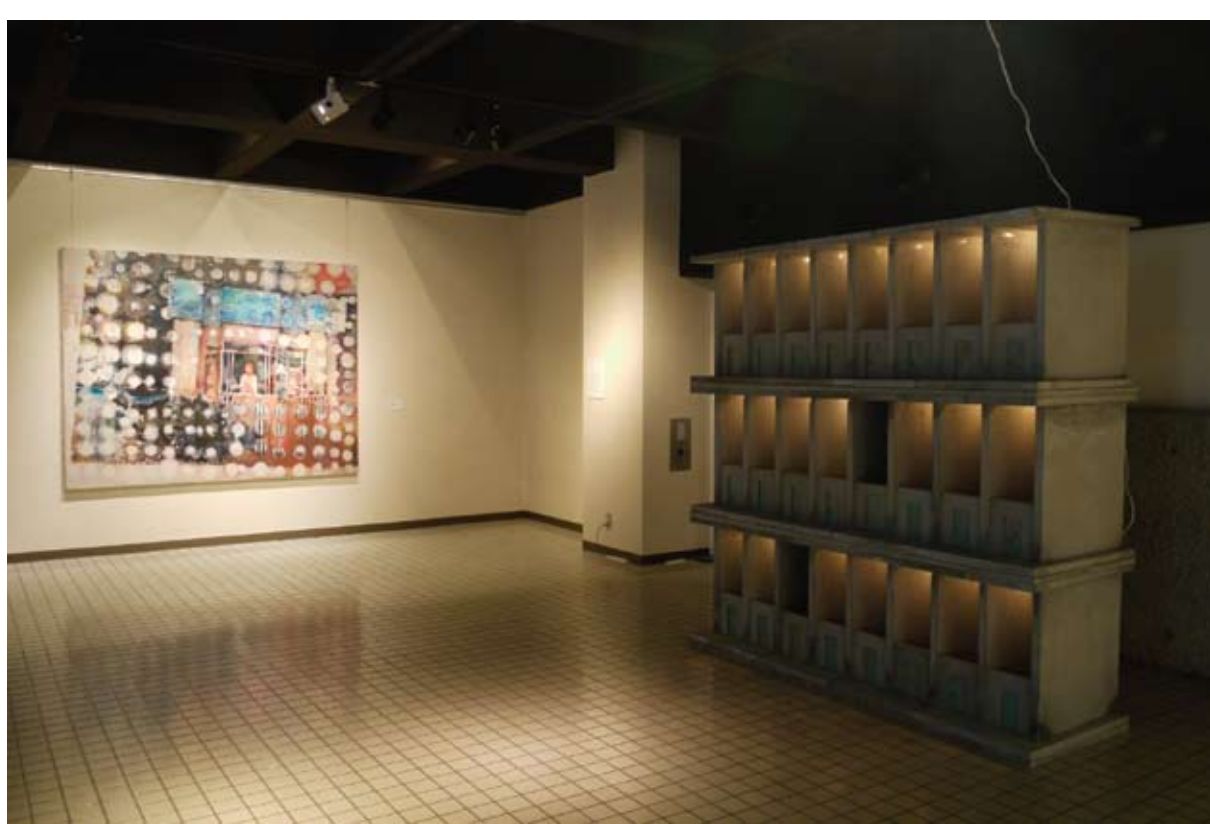
第4回北の彫刻展（1988年）
【本館】 左奥：坂坦道、右奥：本田明二、手前：丸山隆



第4回北の彫刻展（1988年）
【本館庭園】 左奥：田村宏、手前中央：中江紀洋、右奥：山本一也



北の彫刻展2002（2002年）
【本館】 川上りえ



New Eyes 2012 となりのひと（2012年）
【本館】 左：小林麻美、右：野又圭司



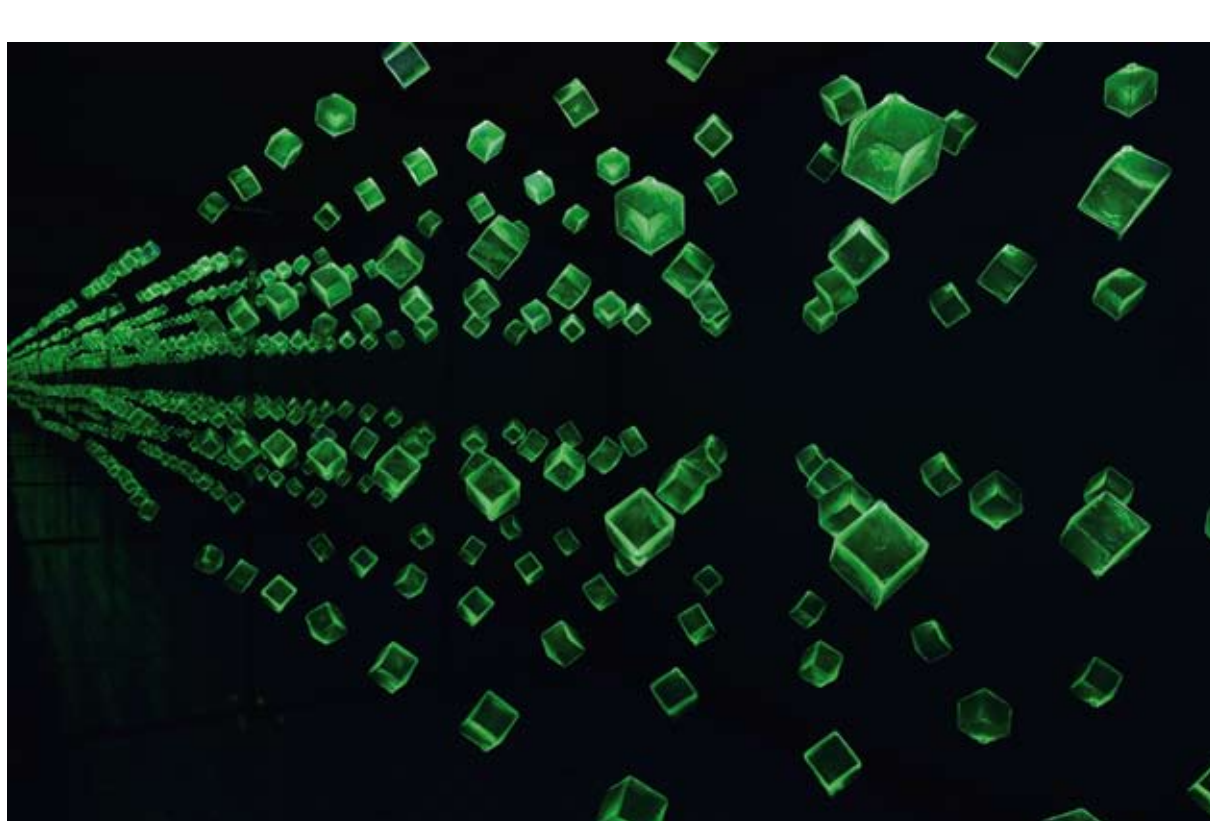
New Eyes 2014 Our Place（2014年）
【本館前庭】 小助川裕泰



In My Room vol.10 佐々木仁美（2014-15年）



グリーンサイド展（1984年）



柿崎均展―光のかたち―（2013年）
撮影：山岸せいじ

さまざまな立体表現との出会い

国内外の彫刻展

北海道に留まらず、国内外の優れた彫刻、陶芸、舞台美術など、さまざまな立体表現を紹介する展覧会を開催しています。

ビーゲラン彫刻展（1983年）

スジャク・ラーマン展（1984年）

第1回国際シューボックス彫刻展（1984年）

アフリカ彫刻展（1985年）

今日の金属造形展—日本とドイツの作家たち—（1986年）

白石齊陶芸展（1986年）

安倍安人展—陶芸と彫刻の稜線—（1998年）

二つの文化—小寺真知子彫刻展（2002年）

かたちの復権—景観と象徴のはざま—（2007年）

開館35周年記念 ロダン展（2016年）

**札幌市民交流プラザ開館記念連携事業 オペラの衣裳と舞台美術
～煌く「アイダ」の世界**（2018年）

舟越桂展～言葉の森～（2020年）



ビーゲラン展（1983年）



オペラの衣裳と舞台美術～煌く「アイダ」の世界（2018年）

さっぽろ雪像彫刻展

2009年度から毎年1月末の金～日曜日に、本館庭園を会場として、札幌の造形作家や学生が雪で制作した10基前後の彫刻を公開しています。さっぽろ雪まつりの雪像とはひと味ちがう、造形性を重視した作品は、雪だからこそ可能な大きさや加工のしやすさ、白さを生かした独自の表現がみられ、北国ならではの冬の屋外での展覧会として定着してきました。

〈これまでの参加作家〉

タニグチススム、清水宏晃、斉藤佑介、高田順子チーム、ダム・ダン・ライ、富原加奈子、桂充子、佐藤一明、滝沢千秋、河本務、千葉有造、児玉陽美、板本伸雄、米沢春花、渡部陽平、野村裕之、大泉水也、佐々木仁美、さとうゆうき、熊谷文秀、佐藤隆之、小川豊、河口真哉、須藤大介、大沼望、丸山恭子、石井誠、河崎ゆかり、くまがいきよし、水戸麻記子、関川冬真、伊藤隆弘、伊藤美千代、塩島瑠子、清水郁太郎、土田義昌、前田裕人、北海道芸術デザイン専門学校クラフトデザイン専攻、北海道札幌平岸高等学校デザインアートコース、星槎道都大学梅田彫刻ゼミ



さっぽろ雪像彫刻展2017（2017年）

貸館

本館を希望者に貸し出し、さまざまな表現の発表の場としてご利用いただいています。高低差のある独特な展示室は、彫刻をはじめ陶芸やインスタレーションなどの多様な作品においても空間的な響き合いを生み、好評をいただいています。

タニグチススム陶展 胎動への問い（2009年）

北海道立体表現展 '10—作家 56 人の小品展—（2010年）

PLUS 1 This Place（2010年）

齋藤周、千代明、谷口明志、ダム・ダン・ライ、坂東宏哉、藤本和彦、大島潤也、川上りえ、澁谷俊彦、James Jack

甲斐野弘幸・市子二人展（2011年）

鈴木吾郎 彫刻 50 年展（2012年）

市民の愛蔵彫刻展—魅せます私のコレクション（2012年）

長岐和彦展（2012年）

中橋修展—内包—（2013年）

環そして宙船—望月健展（2014年）

いけばな小笠原流宮の森教室発表会（2014年～）

新制作展—北海道ゆかりの作家たち展（2017年）

吾孫子雄子、板谷諭使、大橋弘子、加藤寛之、丸藤真智子、木滑美恵、末次弘明、塚崎聖子、野田恭吾、松木義三、八重樫眞一、大谷実佳子、橋本諭、秋谷祐子、おおひらよしこ、加賀谷健至、中野威、野口真理、馬場拓也

POST 3.11 in Sapporo ～沈みゆく記憶の淵で～（2019年）

安藤榮作、石塚雅子、白濱雅也、半谷学、横湯久美

グループ展「雪のあと・形のさき」～彫刻美術館と白い季節の仲間たち～（2021年）

伊藤三千代、熊谷文秀、河崎ゆかり、佐々木仁美、佐藤一明、塩島瑠子、清水郁太郎、清水宏晃、土田義昌、野村裕之、丸山恭子、水戸麻記子、寺嶋弘道

各地の彫刻、美術館を訪ねる

彫刻めぐり

札幌市内や北海道内にある彫刻をめぐるツアーを開館時から行ってきました。当初は田上吉也理事長や、国松登理事、本田明二理事、原子修館長らが講師を務めていました。時には、本郷新賞受賞作品を訪ねて花巻や十和田湖、信濃、倉敷方面に赴くなど道外にも泊まりがけで足を伸ばすこともありました。1993年度には、イギリスとスペインをめぐるツアーを行っています。2007年度までに55回実施しています（石狩の像を訪ねる会を除く）。

石狩の像を訪ねる会

本郷新の命日の2月13日に、石狩浜の《石狩》の像を訪ね献花をする会を、本郷淳氏、柳川慶子氏などご遺族の同行のもと、初年度から毎年行っていました。また、その夜には、本郷新と親交のあった方々や関係者が集まり、「きりたんぼ田むら」を会場に「抜海忌」が催されました。1999年度からは、《石狩》の除幕式（6月30日）にちなんで6月に移行し、2014年度まで続けられました。

宮の森散策と美術館鑑賞の会

1999年度から2008年度にかけて、円山公園や荒井山、大倉山、三角山などを散策し、本郷新が愛した宮の森の自然や点在する野外彫刻をめぐり、当館の展示を鑑賞する事業を行いました。毎年四季の変化を追ってテーマを決め、年5～6回実施していました。

美術館めぐり

当館のほか、北海道立近代美術館や札幌芸術の森美術館、札幌文化芸術交流センターSCARTSなど市内の美術館やアートセンターをバスでめぐるツアーを2010年度から年数回実施しています。昼食をはさみ、各館で開催中の展覧会を学芸員による解説付きで観覧し、丸1日、美術鑑賞を楽しむことができます。



第2回彫刻めぐり【コース 円山～宮の森】
（講師：本田明二、1981年11月17日）



第21回彫刻めぐり【コース 石狩町石狩浜】
（講師：-本郷淳、1987年2月13日）



宮の森散策と美術館鑑賞の会 ステージIV「春雪の三角山」
（2002年3月16日）

より深く、より楽しく

講演会・シンポジウム

展覧会に合わせて、出品作家や作品の理解を深める講演会を開催してきたほか、本郷新賞に関連して公共空間における野外彫刻について考える講演や対談、シンポジウム等を数多く行ってきました。2016年度からは、広く彫刻に関するテーマを扱う「彫美連続講座」を、美術館を離れ、より交通の便がよい広い会場で年3～4回実施しています。

1980年度	講演「本郷新のひとと芸術」本田明二 講演「本郷新の想い出」国松登 「公園とビデオ（本郷新の漂流釣り）の集い」田上吉也
1981年度	ガラス工芸と彫刻の出会い展記念講演「雪…ガラスと…彫刻と」浅原千代治
1982年度	第1回北の彫刻展記念講演「彫刻の魅力…東西」舟越保武、スタファン・オストロンド
1983年度	第1回本郷新賞受賞展記念講演「公共空間における彫刻」菊池一雄 シンポジウム「野外彫刻の美」舟越保武、本田明二、金子健二、安倍和子、寺田栄、栗原俊明
1985年度	アフリカ彫刻展記念講演「アフリカ彫刻との出会い」「アフリカのお話し—夏休み・親子アフリカ彫刻めぐり」橋本信夫 第2回本郷新賞受賞展記念講演「彫刻をめぐって『具象と抽象』」堀内正和
1987年度	第3回本郷新賞受賞展記念講演「今日の野外立体造形の動向について」本間正義 シンポジウム「公共空間の野外彫刻をめぐって」本間正義、本田明二、塚脇淳
1988年度	講演とスライドの会「フランス人の目でみた、日本とフランスの接点」ビエール・セッカリー
1989年度	第4回本郷新賞受賞記念座談会「公共彫刻における彫刻」國松明日香、本郷淳、国松登 講演「國松明日香を囲む会」 講演「舞踏の発生から芸術の周辺」篠原一介
1990年度	講演「彫刻と絵画のはざまにて」米谷哲夫 講演「この頃思うこと・考えること」小川東州 講演「アフリカの森の生活と文化」橋本信夫
1991年度	第5回本郷新賞受賞記念講演「野外彫刻の昨日、今日」匠秀夫
1993年度	第6回本郷新賞受賞記念シンポジウム「環境における野外彫刻の今日とこれから」岡村正吉、渡辺行夫、佐藤友哉、國松明日香
1995年度	第7回本郷新賞受賞記念シンポジウム「公共空間における立体造形—今日とこれから」向井良吉、眞板雅文、國松明日香、渡辺行夫
1997年度	第8回本郷新賞受賞記念対談「パブリックアートの現在—日本とイタリア—」豊福知徳、陸里鐵郎
1998年度	安部安人展記念講演「陶芸と彫刻」辻成史
1999年度	第9回本郷新賞受賞記念講演「瞑想の彫刻家井上武吉」酒井忠康
2001年度	第10回本郷新賞受賞記念対談「野外彫刻の今日的すがた」澄川喜一、酒井忠康、佐藤友哉
2003年度	第11回本郷新賞受賞記念講演「所在そして記憶」土屋公雄
2005年度	第12回本郷新賞受賞記念講演「自作を語る」石井厚生
2007年度	第13回本郷新賞受賞記念対談 酒井忠康、前田哲明
2009年度	第14回本郷新賞受賞記念講演「私の彫刻への漂流と原型」江口遇
2011年度	具象彫刻30人展講演会「佐藤忠良氏を偲んで」鈴木吾郎 第15回本郷新賞受賞記念アーティストトーク 西野康造
2013年度	柿崎均展アーティストトーク 柿崎均、本庄千晶 ハルカヤマ藝術要室2013報告会
2014年度	第1回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念シンポジウム「環境に生きるかたち—パブリックアート、ふたたび」酒井忠康、建昌哲、植松奎二、阿部典英、佐藤友哉（会場：道新プラザDO-BOX） 第1回本郷新記念札幌彫刻賞受賞作品除幕記念柳川慶子講演会
2015年度	第1回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念展アーティストトーク 谷口顕一郎 田上義也と札幌彫刻美術館展オープニングトーク「田上義也の素顔」田上茂
2016年度	野又圭司展アーティストトーク 野又圭司 野又圭司展対談 野又圭司、今井順 第1回彫刻セミナー 文化講演会「ブロンズ彫刻の制作方法と屋外での保存の問題点—ロダン作品をめぐって」黒川弘毅（札幌彫刻美術館友の会との共催）
2017年度	アフリカの仮面と彫像展記念講演会「赤道アフリカの文化と造形」橋本信夫（札幌彫刻美術館友の会協カイベント） アフリカの仮面と彫像展スペシャルトーク「赤道アフリカの文化と造形」橋本邦江（札幌彫刻美術館友の会協カイベント） 第1回本郷新記念札幌彫刻賞講評会「フォーラム—これからの彫刻を考える」酒井忠康、建昌哲、植松奎二、阿部典英、佐藤友哉、寺嶋弘道（会場：道新プラザDO-BOX） 第2回彫刻セミナー 文化講演会「古代ギリシアのブロンズ彫刻」松本隆、羽田康一、後藤信夫（札幌彫刻美術館友の会との共催、会場：北海道立近代美術館講堂） 第3・4回彫刻セミナー「野外ブロンズ保存セミナー」黒川弘毅（札幌彫刻美術館友の会との共催）

2018年度	第2回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念展アーティストトーク 加藤宏子 オペラの衣裳と舞台美術展講演会「新国立劇場 オペラの舞台裏」小西弘人、「華麗なる衣裳、光の不思議な力〜巨匠マリANO・フォルテュニと舞台芸術〜」ブルース・ダーリング 本田明二展スペシャルトークイベント「本田明二を語る」本田泉、國松明日香 本田明二展講演会「本田明二と札幌の文化芸術」吉崎元章（会場：札幌文化芸術交流センターSCARTS） 第5回彫刻セミナー 文化講演会「ルネサンス期フィレンツェのテラコッタ彫刻」黒川弘毅、藤崎悠子、松本隆（札幌彫刻美術館友の会との共催）
2019年度	フィン・ユール展講演会「フィン・ユールとは」フィン・ユールの作品について」織田憲嗣 公開セミナー「いま、野外彫刻の保全を考える」黒川弘毅、斎藤義晶、亀谷隆、高橋大作、寺嶋弘道、吉崎元章（札幌芸術の森美術館、札幌文化芸術交流センターとの共催、会場：札幌文化芸術交流センター SCARTS）

その他、札幌彫刻美術館友の会による北の彫刻展出品作家を招いて「北の彫刻展作家と語る会」、展覧会出品作家や学芸員によるギャラリートークを実施。

彫美連続講座

2016年度	「彫刻の美をたずねて」（会場：道新プラザDO-BOX） ①「日本の近代彫刻—文明開化150年の潮流」寺嶋弘道 ②「西洋彫刻の表現と技法—ロダンまだ、ロダン以後」國松明日香 ③「現代彫刻の展開—拡張する空間と素材」佐藤友哉
2017年度	「ぶらり、彫刻散歩の休日」（会場：札幌市教育文化会館） ①「古きをたずねる ミケランジェロ：聖母子をめぐる500年」谷古宇尚 ②「新しい彫刻にであう 野外彫刻で公園をつくる」造形集団CINQと石山緑地」神長敬 ③「異端の彫刻にふれる サルバドール・ダリ：触覚への執念」山田のぞみ
2018年度	①「象・型・形—造形に探る凸（オス）と凹（メス）」寺嶋弘道 ②「銅像時代—明治150年の光と影」木下直之 ③「人と馬の彫刻—広場とアトリエの物語」山田のぞみ ④「素材との出会い—彫刻制作40年」松隈康夫（会場：札幌市資料館研修室）
2019年度	①「近代日本彫刻のあけぼの—高村光雲・光太郎、荻原守衛を通して—」新聞仲也 ②「みる、つくる、かんがえる—縄文土偶からテオ・ヤンセンまで—」今村信隆 ③「現代美術に見る立体表現のさまざま」岩崎直人（会場：札幌文化芸術交流センター SCARTS）
2020年度	①「本郷新の彫刻と平和」井上みどり ②「なぜ彫刻は破壊されるのか—本郷新を手がかりに考える」小田原のどか ③「創造的協働—北海道銀行本店レリーフ《大地》（本郷新ほか）をめぐって」柴橋伴夫 ④「芸術」の陰謀：まねる文化・つながる文化 近代から現在」寺嶋弘道（会場：札幌文化芸術交流センター SCARTS）
2021年度	①「この地ならではの表現を求めて〜戦後昭和期における北海道の彫刻家を中心に〜」吉崎元章（オンライン）



第1回本郷新賞受賞展記念シンポジウム「野外彫刻の美」(1984年3月6日)
左より：寺田栄、安倍和子、金子健二、舟越保武、本田明二



彫美連続講座「みる、つくる、かんがえる—縄文土偶からテオ・ヤンセンまで—」(2019年9月29日)
講師：今村信隆、会場：札幌文化芸術交流センター SCARTS

実技講座、造形・デッサン教室

札幌を拠点に活動している彫刻家や工芸家を講師に、本格的な作品づくりを体験し、技術を習得できる講習会を実施しています。また、デッサン教室では、彫刻のかたちのとらえ方などを彫刻家から学ぶ機会を提供しています。さらに、展覧会の関連事業として、出品作家によるさまざまなワークショップを行っています。

1981年度	木彫研究会(本田明二、伊藤寿朗) ※()内は講師
1984年度	パティック・ペインティング実技講座(スジャク・ラーマン)
1990年～96年度	テラコッタ教室(二郎黎)
1997年度	ホワイトメタル鑄造教室(鴻池宏子)
1998～2000年度	造形教室—木彫レリーフ—(小野寺紀子)
2000年度	造形教室—全身像レリーフ—(小野寺紀子)
2001～2008年度	造形教室—テラコッタ—(小野寺紀子)
2009年度	「彫刻を描こう」デッサン教室(國松明日香)
2010年度	PLUS 1 This Placeワークショップ(Jamus Jack)、さっぽろ雪像彫刻展2011ワークショップ「雪アート ワークショップ」
2011年度	ワークショップ「みづかな素材でつくる★不思議なアート」(艾沢詳子)
2011年度	ワークショップ「とりあえずみんなでつなげてみよう会 vol. 2in とりのひと」(富田哲司)
2014年度	大人のデッサン教室(國松明日香)、「美術館の庭の土の作品をつくらう」(小助川裕康子)、「布と糸のなりゆきワークショップ」(進藤冬華)、おとなの造形教室「陶器のペンダントヘッドづくり」(加藤和何子)
2015年度	大人のデッサン教室(國松明日香)、大人の造形教室「七宝焼きのプローチづくり」(小林優衣)
2016年度	大人のデッサン教室(小野寺紀子)、大人の造形教室「紐(ロープ)のレリーフをつくる」(加賀谷健至)
2017年度	おとなの造形教室「いりどりの家」(加賀谷健至)
2018年度	大人のためのワークショップ「本格鋳造体験 小さな彫刻のオブジェづくり」(佳亮子)
2019年度	大人のデッサン教室(毛内やすはる)

ミュージアムコンサート

美術館を会場に、彫刻とともに音楽を楽しむことができるさまざまなコンサートを数多く開催しています。

1981年度	詩と彫刻の出会い(朗読：高木孔美子、ギター：藤垣秀雄、ソプラノ：川上順子) 室内楽と彫刻の出会い(チェンバロ：中川ヒサ子、ヴァイオリン：山下浩司、チェロ：北市勝年) ヨーロッパの古典楽器と彫刻の出会い(ヴァイオラ・ダ・ガンバ：千成千恵、ハーブシコード：Rhona Freeman) 日本の古典楽器と彫刻の出会い(堅田喜千照、堅田喜千城、鳳声晴、扇谷治男)
1982年度	クラシックギターと彫刻の出会い(赤坂孝吉) 詩の朗読と彫刻の出会い(朗読：天本英世、ギター：竹下茂、安藤英明) 室内楽と彫刻の出会い(市川映子、富岡雅美、馬場順子、細川順三、細川幸子)
1983年度	映画と彫刻の出会い(村野鐵太郎、本郷淳) バロック音楽のタベ(ニードーライントリオ「ポジティヴオルガン：ジョン・ペル、ファゴット：笹野公紀、フルート：村松正克」)
1984年度	クラシックギターのタベ(木村雅信、星井清) バロック音楽のタベ(名古屋バロック合奏団) クラシックギター演奏のタベ(赤坂孝吉)
1985年度	クラシックギターとソプラノのタベ(ギター：藤垣秀雄、ソプラノ：加藤久恵)
1986年度	チェンバロのタベ(木村雅信) クラシックギターのタベ(赤坂孝吉)
1987年度	ヴァイオリンとギターのタベ(市川映子、熊谷政治) ギターと室内楽のタベ(藤垣秀雄、アバントーネ合奏団)
1988年度	ヴァイオリンとフルートと三十絃のタベ(深澤秀心吟、山崎寿、則竹正人)
1990年度	女性コーラスのタベ(女性室内アンサンブル カリヨン)
1992年度	札幌・ミュンヘン姉妹都市提携20周年記念 室内コンサート〜彫刻とのふれあい〜(民族楽団フ라우ンホイザー)
1993年度	クラシックギターと彫刻と(藤井眞吾)
1994年度	コールドラウベ 歌のタベ(コールドラウベ)
2003年度	マンドリン四重奏(北海道教育大学札幌校マンドリンクラブOB会アンサンブル) 木管五重奏のタベ(テール・デュ・リール木管五重奏団) クリスマスコンサート(女性声楽グループ・イリス)
2004年度	カルチャーナイト オープエ、ファゴット、ピアノ三重奏(オープエ：竹石哲也、ファゴット：Paul Anderws、ピアノ：竹石由美) 琴三十弦の世界(深澤秀心吟、河野祐希、星野花観) クリスマスコンサート(女性声楽グループ・イリス)
2005年度	美術館コンサート(Terra弦楽四重奏団) サマーコンサート—カルチャーナイト(弦楽デュオ、和楽デュオ、レインドックス、ジャストフレンズ) 美術館コンサート—琴、バイオリン・ピアノ二重奏(桜の会、大石和彦・大石暢子) 美術館コンサート—オープエ、ピアノ二重奏(竹石哲也、竹石由美) クリスマスコンサート(女性声楽グループ・イリス)
2006年度	サマーコンサート—カルチャーナイト(オープエ：竹石哲也、ピアノ：竹石由美) 宮の森芸術フェスタ コンサート(チェロ：土田英順、トランペット：金子義人、教育大JAZZ研) 秋のコンサート—絵本の読み聞かせとピアノと和太鼓演奏—(朗読：村上里和、ピアノ：岡本恵里、和太鼓：世古知己) クリスマスコンサート—ピアノとヴァイオリンの二重奏—(伊藤暢子、高崎希美)
2007年度	宮の森コンサート—カルチャーナイト—ファゴットとオーボエとピアノのタベ—(オープエ：竹石哲也、ピアノ：竹石由美、ファゴット：笠原嶺) 宮の森芸術フェスタ コンサート(チェロ：土田英順、教育大JAZZ研) ミュージアムコンサート「音と彫刻のコラボレーション」(和太鼓：金子竜太郎)
2008年度	クリスマスコンサート—ピアノとヴァイオリンの二重奏—(ピアノ：伊藤暢子、バイオリン：高崎希美) カルチャーナイト 宮下祥子ギターコンサート(宮下祥子) 宮の森芸術フェスタ コンサート(チェロ：土田英順、教育大JAZZ研) トリオRaleクリスマスコンサート(立花雅和、山本郁実、上田博実)
2009年度	札幌西高校オーケストラ部 コンサート 宮の森芸術フェスタ コンサート(バイオリン：大平まゆみ) クリスマスコンサート—オープエとピアノで奏でるクリスマスの調べ(竹石哲也、竹石由美)
2010年度	宮の森音楽祭(PTA団体)
2011年度	開館30周年記念コンサート 白樺の歌(札幌市立宮の森小学校スクールバンド、札幌市の手高等学校合唱部、赤川智保モダンバレエスタジオ、柳川慶子)(会場：札幌市教育文化会館大ホールで開催)
2012年度	ミュージアムコンサート(オープエ：玉城周哉、ピアノ：佐々木信江) ミュージアムコンサート(ボーカル・ギター・キーボード：WISH(古賀さとし、種市直樹)、ハーブ：千葉智寿)
2013年度	ミュージアムコンサート(ギター：星井清、フルート：大島さゆり)
2014年度	ナイトミュージアム ミュージアムコンサート(リコーダー：中野聖子・小谷智子、チェンバロ：後山美菜子) ナイトミュージアム ダンスパフォーマンス「夕暮れ」(牛島有佳子、Kick、齋藤智仁、演出：森嶋拓) ミュージアムコンサート(リコーダー：秋山晴人)
2015年度	ナイトミュージアム ミュージアムコンサート(ソプラノ：一鐵久美子、ピアノ：小杉彦)
2016年度	ナイトミュージアム 開館35周年記念ミュージアムコンサート(ヴァイオリン：大石和彦、ピアノ：後山美菜子)
2017年度	「アフリカの仮面と彫像」展オープニングコンサート「アフリカドラマ"ジャンベ"の鼓動」(辰呂剛伸他) サンクスデー ロビーコンサート「ギターの調べ」(藤垣秀雄) ナイトミュージアム ミュージアムコンサート(フルート：浅井良子、ピアノ：紅林さやか)
2018年度	ミュージアム・コンサート「Kitara 専属オルガニスト チェンバロ・コンサート」(マルタン・グレゴリウス) ミュージアム・コンサート「華麗なるオペラアリア」(ソプラノ：川島沙耶、ピアノ：前田朋子) カルチャーナイト2018 ミュージアム・コンサート「夏の夜のマリンバコンサート」(菅野勢津子)
2019年度	カルチャーナイト2019 ミュージアム・コンサート「夏の夜のギターの調べ」(星井清)
2021年度	ナイトミュージアム トワイライトコンサート「夕間暮れのフルートアンサンブル」(浅井良子、高殿幸、富樫力レン)



造形教室—テラコッタ—(2004年2月21・22日)
講師：小野寺紀子



大人のデッサン教室(2015年5月30日)
講師：國松明日香



詩と彫刻の出会い(1981年9月29日)
朗読：高木孔美子、ギター：藤垣秀雄、ソプラノ：川上順子



日本の古典楽器と彫刻の出会い(1982年3月25日)
朗読：高木孔美子、堅田喜千照、堅田喜千城、鳳声晴、扇谷治男



札幌・ミュンヘン姉妹都市提携20周年記念 室内コンサート〜彫刻とのふれあい〜(1982年8月1日)
民族楽団フ라우ンホイザー



ミュージアムコンサート(2012年12月22日)
ボーカル・ギター・キーボード：WISH(古賀さとし、種市直樹)、ハーブ：千葉智寿

次代を担う子どもたちのために

子ども造形教室

夏休みと冬休みを中心に、小中学生を対象として、学校では体験できないような多様なものづくりに挑戦し、つくる楽しさを味わうことができる造形教室を、彫刻家や画家、工芸家などを講師に行っています。

- ※() 内は講師
- 1999～2007年度 子ども造形教室―厚紙工作―(白井園毅、芝木秀昭、伊藤善彬、鹿野友恵、只石光沙、芝木秀昭、富田泰、礼教大生)
- 2001～2007年度 子ども造形教室―デッサン―(武市尚政)
- 2003～2007年度 親子デッサン会
- 2008年度 小学生造形教室(川合梯一)
中学生デッサンセミナー(武市尚政)
冬休み親子造形教室(藤井正治)
- 2009年度 冬休み親子造形教室・冬休み中学生造形教室―ブロンズ粘土(講師：中尾孝典)
- 2010年度 夏休み子ども造形教室―ブロンズ粘土(中尾孝典)
PLUS 1 This Place ワークショップ(タム・ダン・ライ、川上りえ)
- 2011年度 冬休み子ども造形教室「ブロンズ粘土で彫刻をつくろう！」(中尾孝典)
- 2012年度 夏休み子どもワークショップ「みちかなひとの足型をつくろう！」(田村陽子)
- 2013年度 夏休み子ども造形教室―ブロンズ粘土(中尾孝典)
冬休み子ども造形教室―デッサン(國松明日香)
- 2014年度 夏休み子ども造形教室「ブロンズ粘土で彫刻をつくろう！」(板本伸雄)
冬休み子ども造形教室「デッサンの基礎を学ぼう！」(國松明日香)
- 2015年度 夏休み子ども造形教室「美術館にすむ妖精をつくろう！」(伊藤幸子)
親子の凹みワークショップ「凹み彫刻をつくろう！」(谷口顕一郎)
冬休み子ども造形教室「木のスツールをつくろう！」(キシモトユキオ)
- 2016年度 夏休み子ども造形教室「ブロンズ粘土で彫刻をつくろう！」(丸山恭子)
冬休み子ども造形教室「デッサンの基礎を学ぼう！」(國松明日香)
- 2017年度 夏休み子ども造形教室「ブロンズ粘土で彫刻をつくろう！」(川名義美)
冬休み子ども造形教室「くるくるペーパークイリングで葉っぱのレリーフ制作」(川名義美)
- 2018年度 子どもワークショップ「見えないものをかたちにしてみよう」(加藤宏子)
夏休み子ども造形教室「ブロンズ粘土で彫刻をつくろう！」(板本伸雄)
冬休み子ども造形教室「寄木でつくる北海道のいきもの」(加賀谷健至)
- 2019年度 夏休み子ども造形教室「ブロンズ粘土で彫刻をつくろう！」(藤本和彦)
冬休み子ども造形教室「テラコッタ粘土でオブジェをつくろう！」(川名義美)
- 2020年度 夏休み子ども造形教室「彫刻を描こう！」(丸山恭子)
こどもとおとなのデッサン教室(桂充子)
- 2021年度 夏休み子ども造形教室「わくわくカラクリ塾」(清水郁太郎)
こどもとおとなのデッサン教室(桂充子)



移動展示・授業

札幌市内の小学校に当館所蔵の本郷新のブロンズ作品を持参し、学芸員が作品解説するとともに、粘土を使って模刻する授業を実施しました。2007年度から2011年度までの5年間で、のべ47校、4,210人の児童が参加しました。また、完成作品の一部は、当館研修室にも展示しました。



子どもの文化芸術体験事業「ハロー！ミュージアム」

札幌芸術の森美術館で2007年度から実施している事業に、新たに「彫刻たんけん！〈本郷新記念札幌彫刻美術館／鑑賞〉」というプログラムとして、2012年度から加わりました。札幌市内の小学5年生を招き、それぞれの児童の自由な意見を引き出しながらスタッフとともに作品を鑑賞しています。また、2020年度からは、「彫美・鑑賞コース」のほかに、粘土による造形(ひもづくり)に重きを置いた「彫美・表現コース」も新設しました。

2020年度までの9年間で、のべ146校、児童8,669人が参加しています。

主催：札幌芸術の森美術館、本郷新記念札幌彫刻美術館(札幌市芸術文化財団)、助成：札幌市、協力：札幌市教育委員会



わくわく★アーツスクール

近隣の小学校の児童が、アーティストとともに、「制作」「展示」「鑑賞」の一連の活動を行う子ども育成事業。学校に向向いたアーティストの指導のもと児童が作品を制作し、その作品を当館に各校から持ち寄り、児童を交えて展示作業を行い作品展を開催しました。

これまでの参加校：札幌市立大倉山小学校、札幌市立三角山小学校、札幌市立宮の森小学校、札幌市立宮の森中学校

- 2017年度 **テーマ：星空と生命**(講師：伊藤幸子、富士翔太郎)
- 2018年度 **テーマ：つながり**(講師：jobin、ダム・ダン・ライ)
- 2019年度 **ほんごうしん じゅりん 本郷新な私**(講師：磯崎道佳)
- 2020年度 **ファンタジー x リアリティ**(講師：クスミエリカ)

※ 新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインで一般から募集した写真をコラージュした作品展示に変更。



学校教育への協力

学校における総合的な学習の時間や社会科の授業、部活動での活動などに協力しています。近隣の小学校は総合的な時間を使った授業で来館しているほか、市内外の小中学校の校外学習や職場体験、団体観覧などを受け入れています。

また、大学での調査、研究等にも積極的に協力し、インターンシップも受け入れています。



親しまれる美術館を目指して

サンクスデー ほか

日頃の感謝を込めて、開館記念日に近い6月末の日曜日と11月3日の文化の日の年2回、展覧会を無料にするほか、ギャラリートークやコンサート、ものづくり教室、オリジナルクッキー販売などさまざまなイベントを行っています。

1999年にスタートした当初は、5月5日のこどもの日に市内の小中学生を無料にするとともに、11月3日に「宮の森サンクスデー」として明和町内会の住民に対する無料開放日でした。

また、2006～2009年には、「宮の森フェスタ」の会場として、地域との協力のもと、多彩な事業を行いました。

さらに、札幌市内全域で展開されている「カルチャーナイト」の一環や、「ナイトミュージアム」と題して夜間開館し、ギャラリートークやコンサートを行っています。

これからも、魅力的な展覧会やさまざまな活動を通して、地域の方々に親しまれる美術館を目指していきます。



サンクスデー(2014年6月29日)